

第 2 次生物多様性ふなばし戦略策定に関わる 各種アンケート調査の結果概要

1. アンケート調査の実施概要

生物多様性や自然環境に対する考え方、取組みの状況等を把握し、新たな戦略に反映させる目的でアンケート調査を実施しました。

アンケートの実施対象は、市民、中高生、事業者及び市民団体です。

表 1-1 アンケート調査の実施概要

	市民 アンケート	中高生 アンケート	事業者 アンケート	市民団体 アンケート
調査対象者	船橋市民（5 地区別に年代 と男女比を考 慮して住民票 から抽出）	[中学生]抽出 された市内の 中学校（10 校） の 2 年生 [高校生]船橋 市立船橋高校 の 2 年生	船橋市に事業 所・事務所を 有する法人 （法人住民税 システムデー タのうち、従 業員者数が 50 人超の均等割 納税義務者）	主要な活動場 を船橋市内と する自然環境 団体等
調査期間	8 月	9 月	8 月頃	9 月頃
配布の方法	郵送	学校による直 接配布	郵送	メール
回収の方法	オンラインシ ステムによる 回答、郵送	学校から環境 政策課に提出	オンラインシ ステムによる 回答	オンラインシ ステムによる 回答、FAX・郵 送
アンケート 配布数	1,000 名	600 名	549 事業者	37 団体
有効回答数	240 名 (24.0%)	599 名 (99.8%)	78 事業者 (14.2%)	22 団体 (59.5%)

※市民、中高生及び事業者アンケートにおいては、「生物多様性」のほか「地球温暖化」に関するアンケートも同時に実施した。

2. アンケート調査結果概要

各種アンケート結果の概要は以下に示すとおりです。なお、各種アンケートの要点となる設問のみを記載しており、全項目のアンケート結果については、資料 5-2 にまとめてあります。

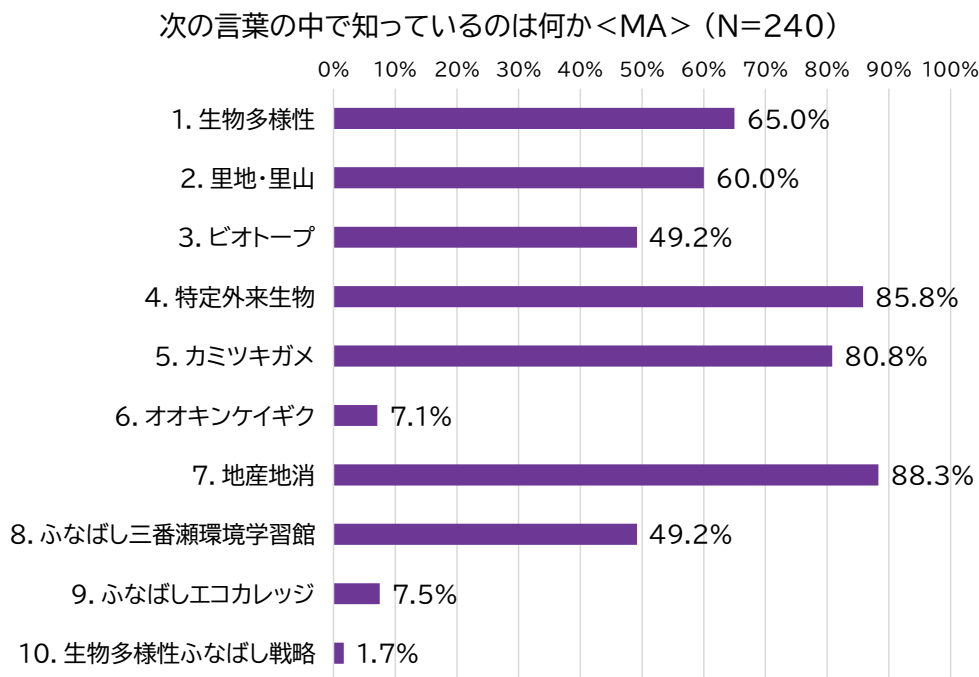
(1) 市民アンケート

調査対象者	船橋市民 (5 地区別に年代と男女比を考慮して住民票から抽出)
調査期間	8 月
配布の方法	郵送
回収の方法	オンラインシステムによる回答、郵送
アンケート配布数	1,000 名
有効回答数	240 名 (24.0%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性に関連する用語の認知度 ・ 自然環境や生き物に対する意識 (重要性) ・ 日常生活における自然とのふれあい状況 ・ 市内の自然の豊かさに対する評価 ・ 自然環境の経年変化 (10 年前との比較) とその理由 ・ 環境保全につながる個人の具体的な取り組み状況 ・ 生物多様性の保全に向けた市への要望・期待する施策
調査結果の要点	<p>【自然環境に対する市民の意識、自然との関わり】 自然環境や生き物に対して、回答者の 8 割強が「とても大切だと思う」と回答しており、自然環境に対する意識が高いと考えられる。また、自然とのふれあいについては、公園や自然の中での散策と回答した人が多かった。</p> <p>【自然環境の経年変化】 市内の自然環境が悪くなった、または変わらないと回答した割合が 6 割以上であった。悪くなった理由として、緑が減ったと回答した割合が 5 割強であった。</p>

グラフの凡例 N:有効回答者数 <SA>:単数回答 <MA>:複数回答

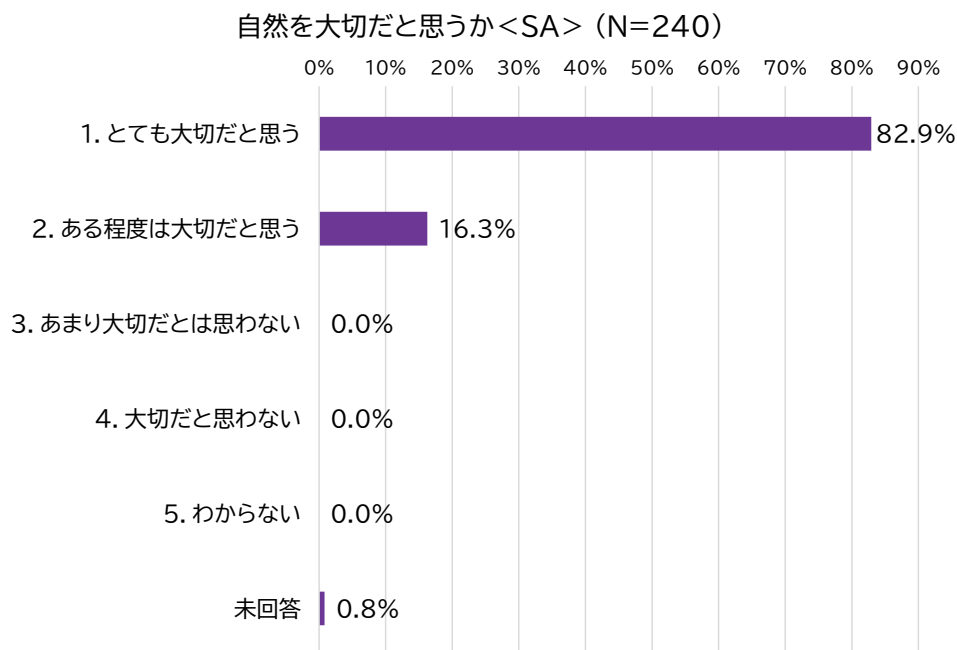
■ あなたは、次の言葉の中で知っているのはどれですか。(複数回答可)

→6割以上の方が「生物多様性」という言葉を知っていると回答した。



■ あなたは、自然（生き物を含む）を大切だと思いますか。(1つ選択)

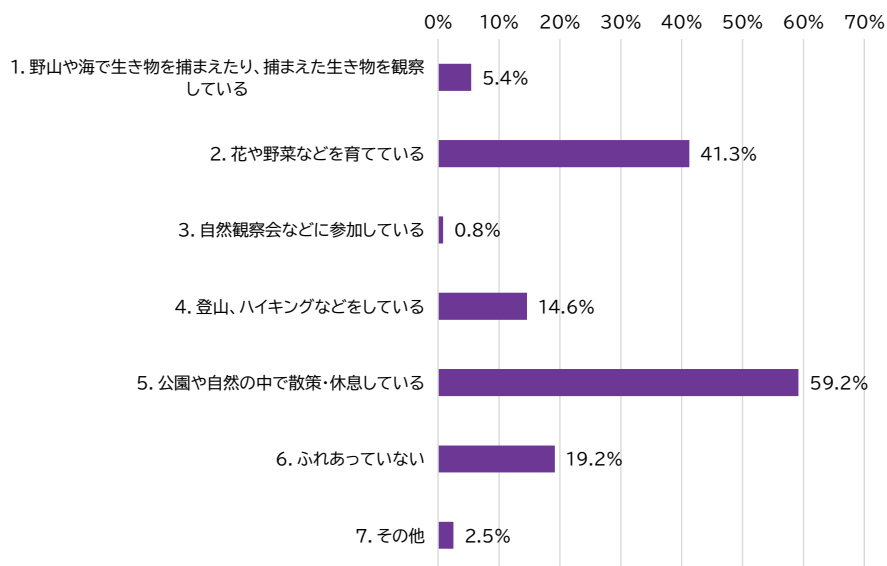
→ほとんどの人が自然を大切に思っている。



■ あなたは現在、どのように自然とふれあっていますか。(複数回答可)

→「公園や自然の中で散策・休息している」人が一番多く、次いで「花や野菜などを育てている」人が多かった。

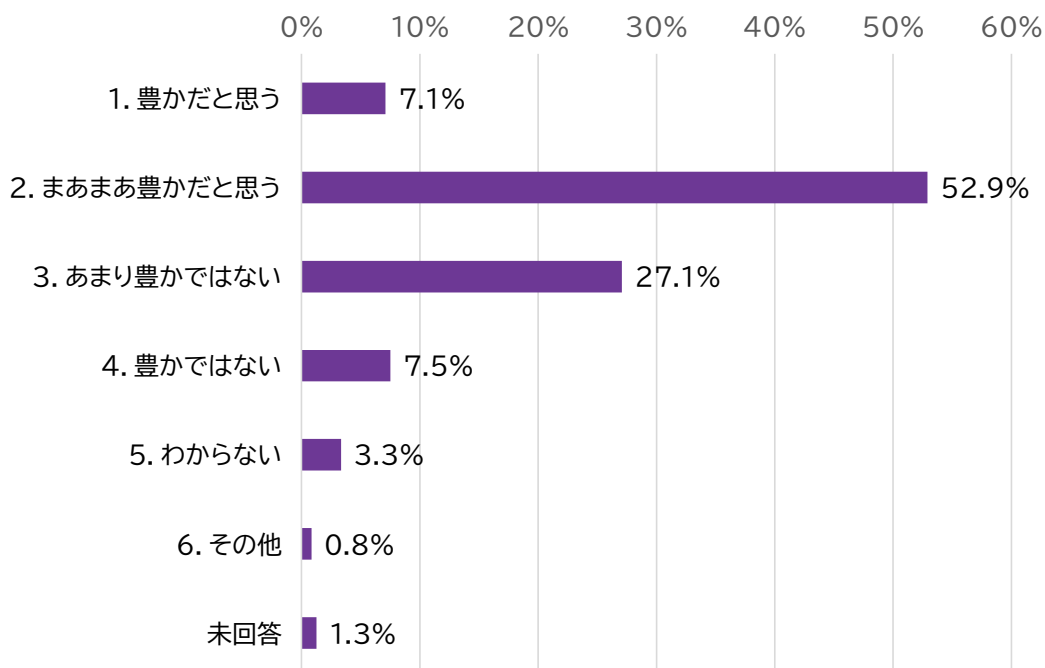
現在、どのように自然とふれあっているか<MA> (N=240)



■ 市内は自然が豊かだと思いますか。(1つ選択)

→約6割の人が市内の自然は豊かだと思っている。

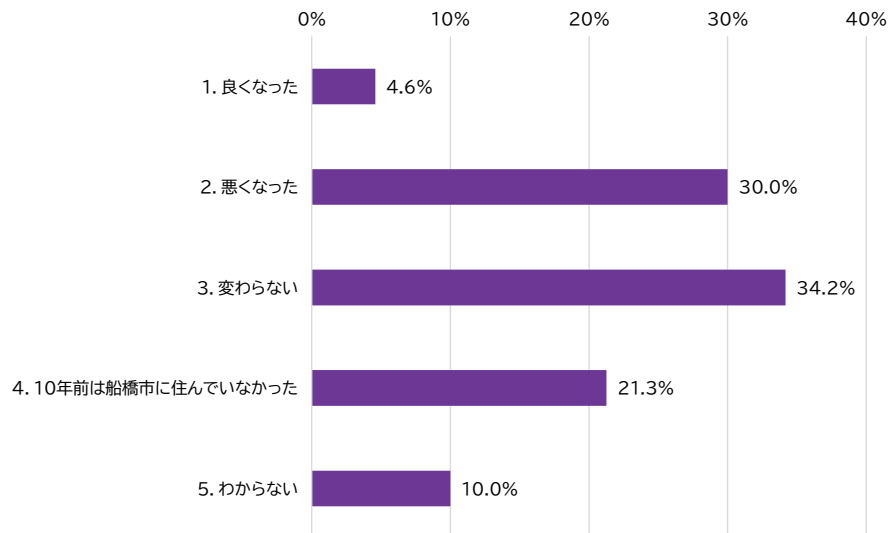
市内は、自然が豊かだと思うか<SA> (N=240)



■ 市内の自然環境は 10 年前と比較してどのように変化しましたか。(1つ選択)

→「変わらない」と感じている人と「悪くなった」と感じている人が、それぞれ約3割であった。

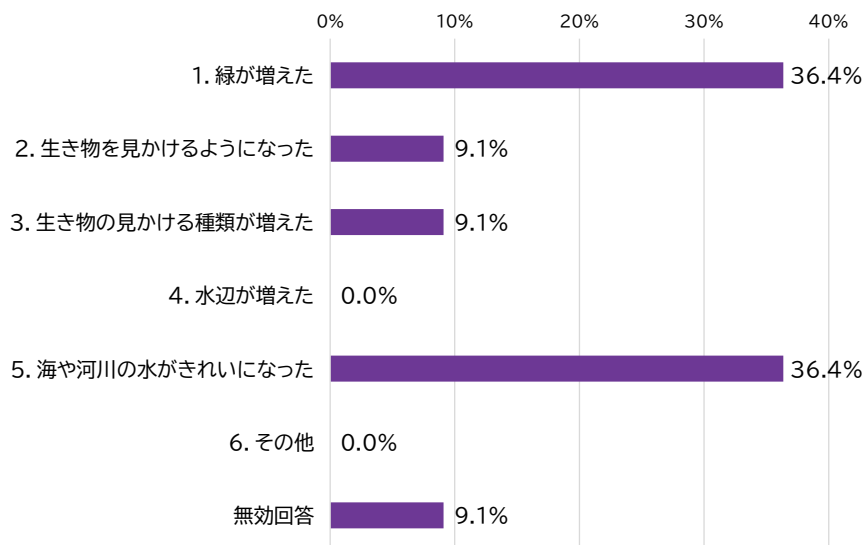
市内の自然環境は10年前と比較してどのように変化を感じたか
<SA> (N=240)



■ 「良くなった」と回答した方にお聞きします。その選択肢を選んだ理由をお聞かせください。(1つ選択)

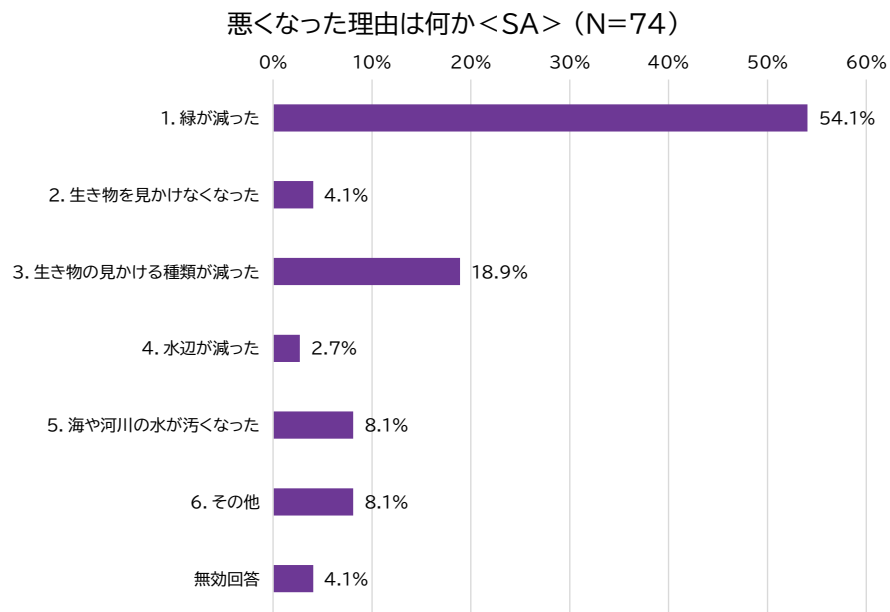
→「緑が増えた」と「海や河川の水がきれいになった」を理由としている人が、それぞれ約3割であった。

良くなった理由は何か<SA> (N=11)



- 「2. 悪くなった」と回答した方にお聞きします。その選択肢を選んだ理由をお聞かせください。(1つ選択)

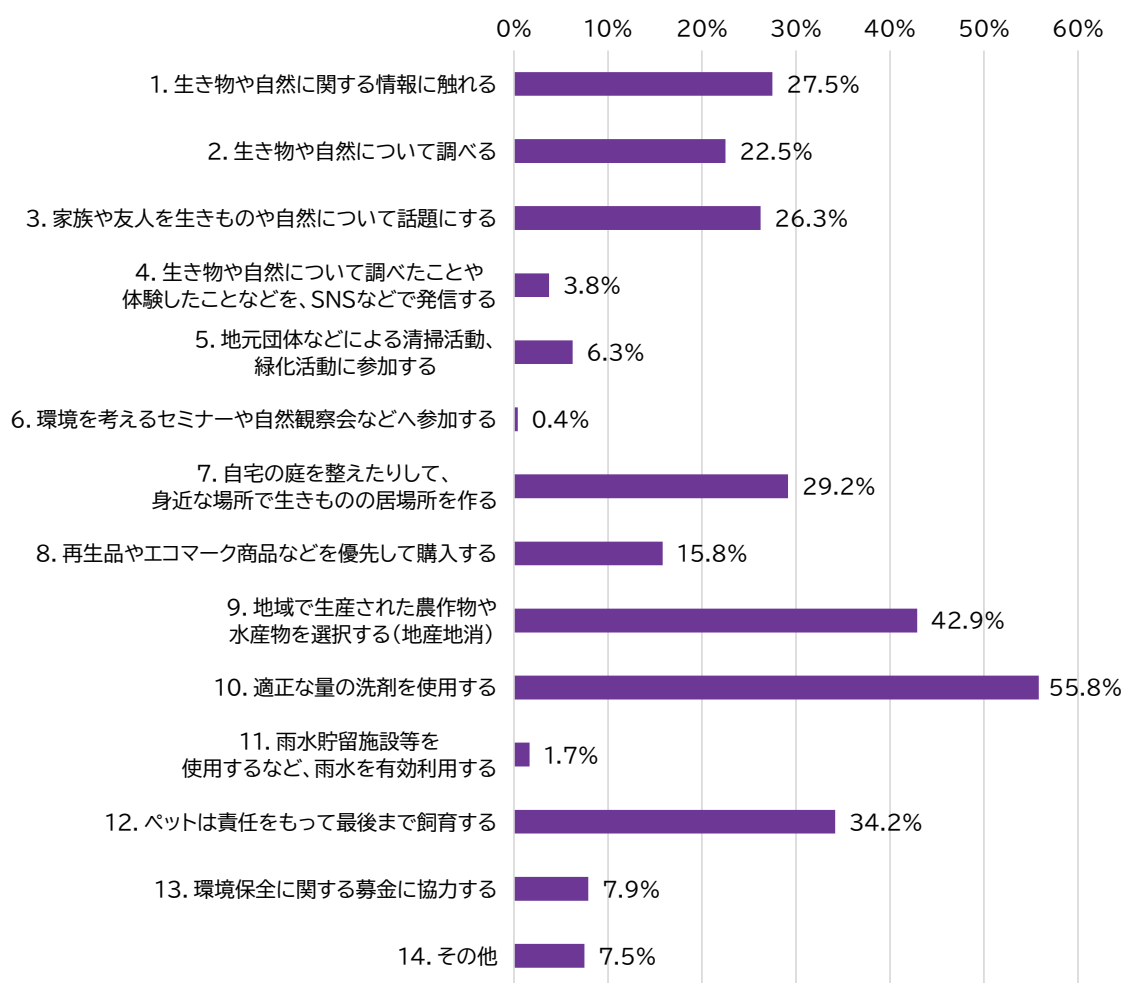
→「緑が減った」を理由としている人が一番多かった。



■ あなたは日常生活の中で生き物や自然環境に配慮して、どのような行動をしていますか。(複数回答可)

→「適正な量の洗剤を使用している」と回答した人が一番多く、次に「地産地消」と回答した人が多かった。直接生き物に関わる行動について行っている人は、それぞれ3割に満たなかった。

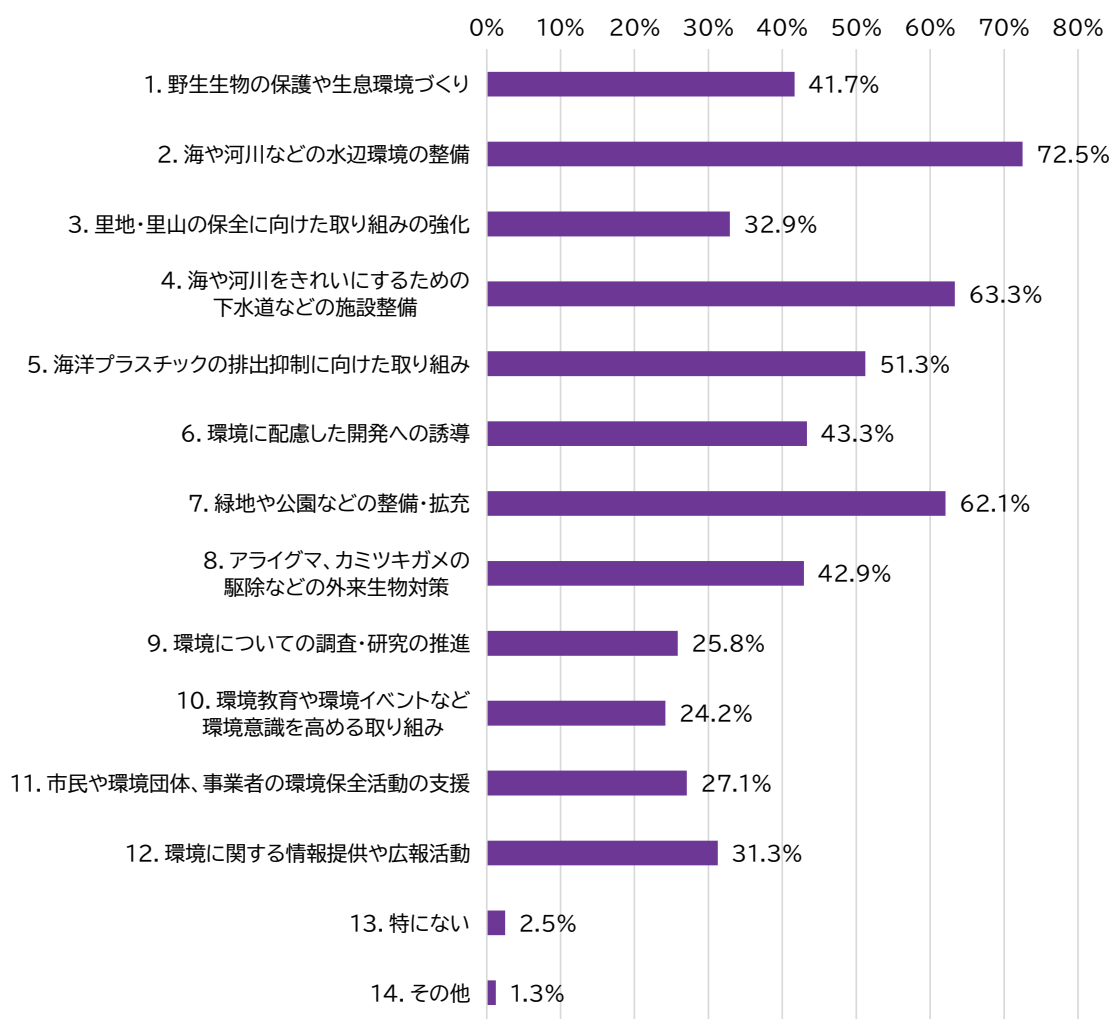
日常生活の中でどのような行動をしているか<MA> (N=240)



- 生き物や自然を守るため、市が取り組むべきことは何だと思いますか。(複数回答可)

→「海や河川などの水辺の環境の整備」「下水道などの施設整備」「緑地や公園などの整備・拡充」の順で多かった。「野生生物の保護や生息環境づくり」「里地・里山の保全に向けた取り組みの強化」「外来生物対策」はそれぞれ3～4割だった。

市が取り組むべきことは何だと思うか <MA> (N=240)



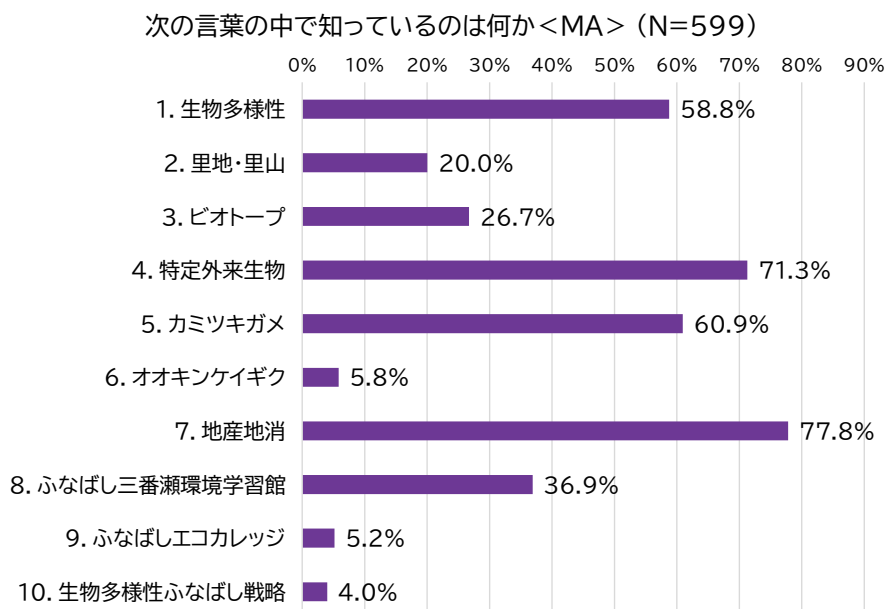
(2) 中高生アンケート

調査対象者	[中学生]抽出された市内の中学校(数校)の2年生 [高校生]船橋市立船橋高校の2年生
調査期間	9月
配布の方法	学校による直接配布
回収の方法	学校から環境政策課に提出
アンケート 配布数	600名
有効回答数	599名(99.8%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関する用語の認知度 ・自然環境や生き物に対する意識(重要性) ・日常生活における自然とのふれあい状況 ・市内の自然の豊かさに対する評価 ・10年後の自然環境のあり方(将来像)とその具体的希望 ・環境保全につながる個人の具体的な取り組み状況 ・生物多様性の保全に向けた市への要望・期待する施策
調査結果の 要点	<p>【自然環境に対する市民の意識、自然との関わり】</p> <p>自然環境や生き物に対して、回答者の約8割が「とても大切だと思う」と回答しており、自然環境に対する意識が高いと考えられる。また、自然とのふれあいについては、公園や自然の中での散策と回答した人が最も多かったが、ふれあっていないと回答した人が次いで多く、4割弱であった。</p> <p>【自然環境の将来像】</p> <p>10年後の自然環境について、約6割が「今より良くなっていると良い」と回答し、具体的な内容については「緑が増えている」「海や河川の水がきれいになっている」と良いと回答した割合が各約3割であった。</p>

グラフの凡例 N:有効回答者数 <SA>:単数回答 <MA>:複数回答

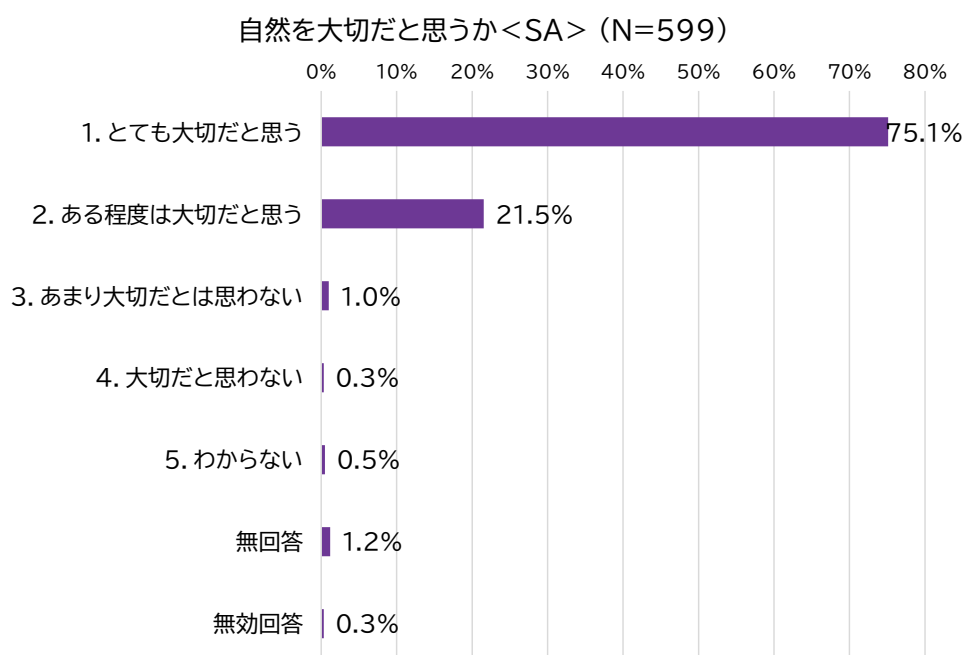
■ あなたは、次の言葉の中で知っているのはどれですか。(複数回答可)

→約6割の人が「生物多様性」という言葉を知っていると回答した。



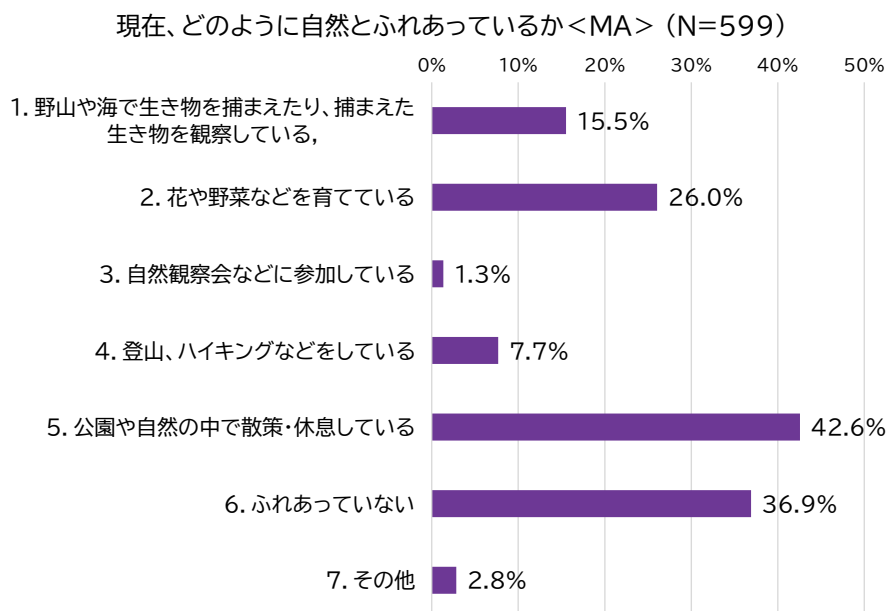
■ あなたは、自然（生き物を含む）を大切だと思いますか。(1つ選択)

→ほとんどの人が自然を大切と思っている。



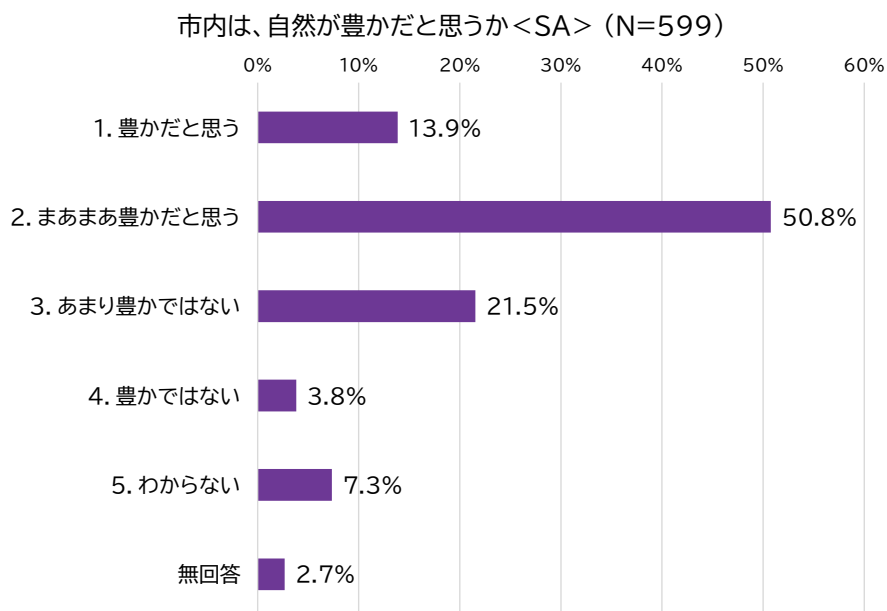
■ あなたは現在、どのように自然とふれあっていますか。(複数回答可)

→「公園や自然の中で散策・休息している」人が一番多く、次いで「ふれあっていない」人が多かった。



■ 市内は自然が豊かだと思いますか。(1つ選択)

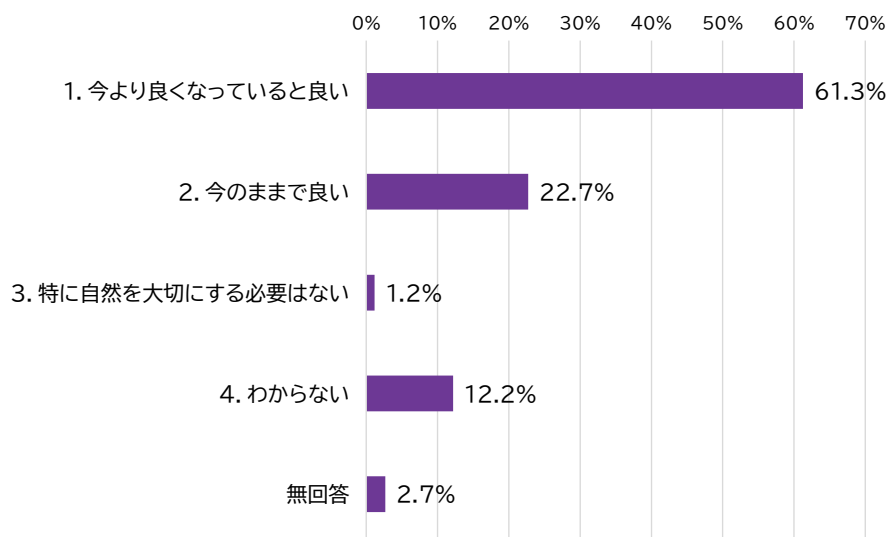
→約6割の人が市内の自然は豊かだと思っている。



- 10年後、市内の自然環境がどのように変化していると良いと思いますか。(1つ選択)

→約6割の人が「今より良くなっていると良い」と思っている。

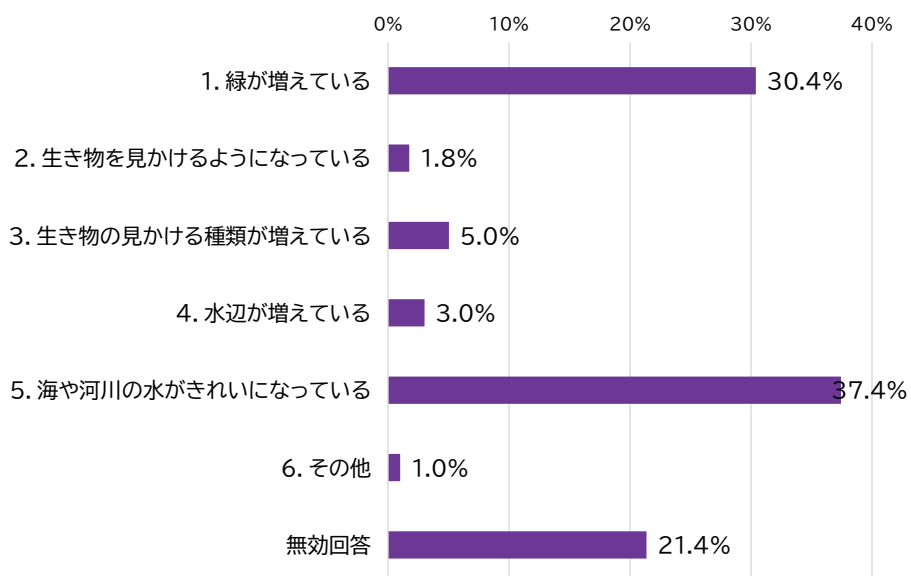
市内の自然環境はどのように変化をしていると良いか<SA>
(N=398)



- 「1. 今より良くなっていると良い」と回答した方にお聞きします。自然環境がどのように良くなったらうれしいと思いますか。(1つ選択)

→「海や河川の水がきれいになっている」と嬉しいと回答した人が一番多く、次いで「緑が増えている」と嬉しいと回答した人が多かった。

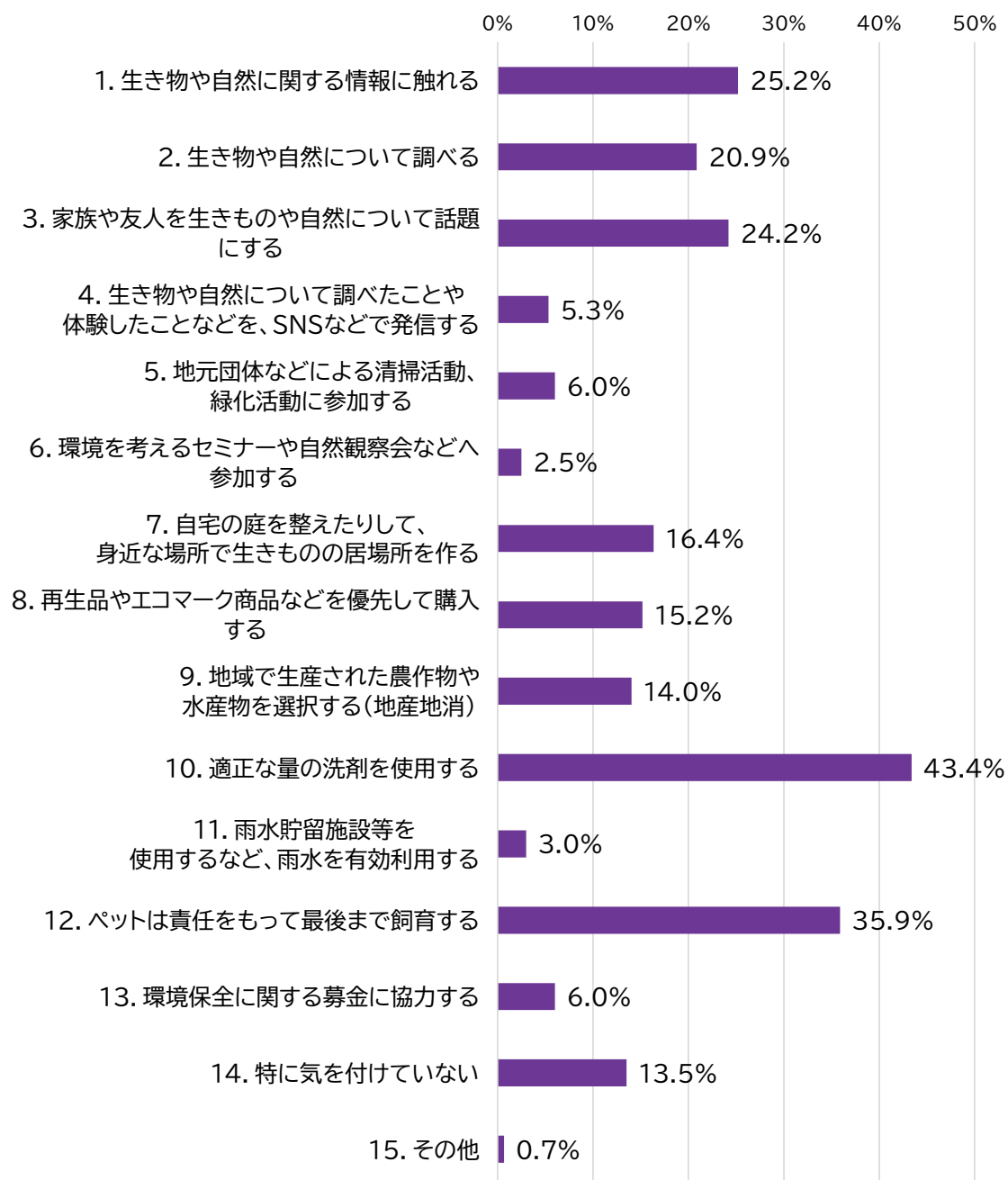
自然環境がどのように良くなったらうれしいか<SA>(N=599)



■ あなたは日常生活の中で生き物や自然環境に配慮して、どのような行動をしていますか。(複数回答可)

→「適正な量の洗剤を使用している」人が一番多く、次に「ペットは責任をもって最後まで飼育する」と回答した人が多かった。直接生き物に関わる行動について行っている人は、それぞれ3割に満たなかった。

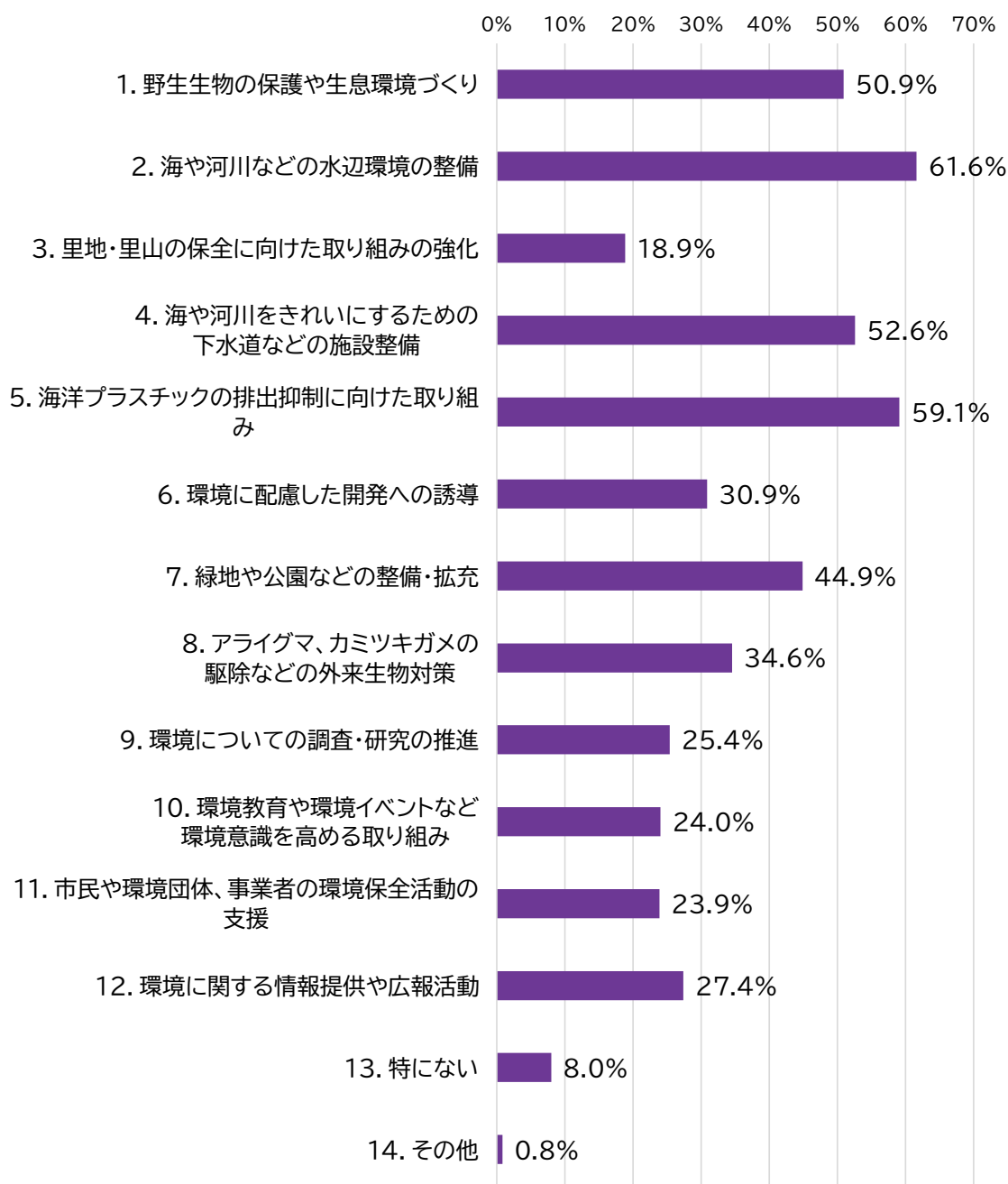
日常生活の中で実行している取組み<MA> (N=599)



■ 生き物や自然を守るため、市が取り組むべきことは何だと思いますか。(複数回答可)

→「海や河川などの水辺の環境の整備」「海洋プラスチックの排出抑制」「下水道などの施設整備」の順が多かった。次いで、「野生生物の保護や生息環境づくり」が多かった。「里地・里山の保全に向けた取り組みの強化」は2割弱、「外来生物対策」は約3割だった。

市が取り組むべきことは何だと思うか<MA> (N=599)



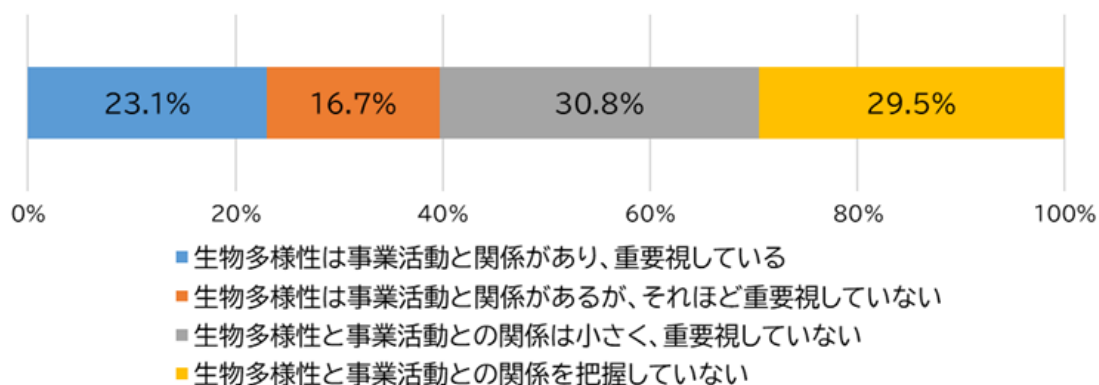
(3)事業者アンケート

調査対象者	船橋市に事業所・事務所を有する法人
調査期間	8月頃
配布の方法	郵送
回収の方法	オンラインシステムによる回答
アンケート 配布数	549 事業者
有効回答数	78 事業者 (14.2%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業活動と生物多様性の関わり (重要性・リスクの把握) ・ 事業活動における生態系サービスの受容状況 ・ 生物多様性の保全に関する具体的な取組状況 ・ 生物多様性の保全に関する方針策定の有無 ・ 他の主体 (行政、NPO、他企業等) との連携状況 ・ 市が企画する事業者向け自然体験プログラムへの参加意向 ・ 取組を進める上での課題 (人手、予算、情報不足等) ・ 市に期待する支援策 (事例提供、補助金、マッチング等) ・ 事業者間・団体間での取組情報の共有化に対する考え方 ・ 市内の生物多様性保全施策に対する自由意見
調査結果の 要点	<p>【生物多様性と事業活動の関連性】</p> <p>事業活動との関連性を重視している事業者は約2割であり、特に温室効果ガスの排出による気候変動の影響について懸念している事業者が特に多かった。また、生物多様性の保全や利用に関する具体的な取組について、温室効果ガスの排出抑制のための取組みを実施している事業者が最も多かった。</p> <p>生物多様性の保全や利用に関する具体的な取組は実施していない事業者が最も多かった。理由としては、事業との関連性が薄いと回答した事業者が多く、事業の中で生物多様性の保全に取り組む意義や重要性が認知されていないことが考えられる。</p> <p>【他の主体との連携活動】</p> <p>生物多様性の保全や利用に関する取組みについて、これまで他の主体と連携した活動は実施していない事業が殆どであった。理由としては、連携の進め方が分からない、予算や時間がかかる等の回答があった。</p> <p>今後の連携の意向については、地方自治体との連携の意向を示した事業者が多かった。</p>

- 貴事業所の事業活動の実施にあたって、生物多様性との関係を考えていますか。また、事業活動におけるその重要性についてどう思われますか。

→約2割の事業者が事業活動との関係を重要視していると回答した。

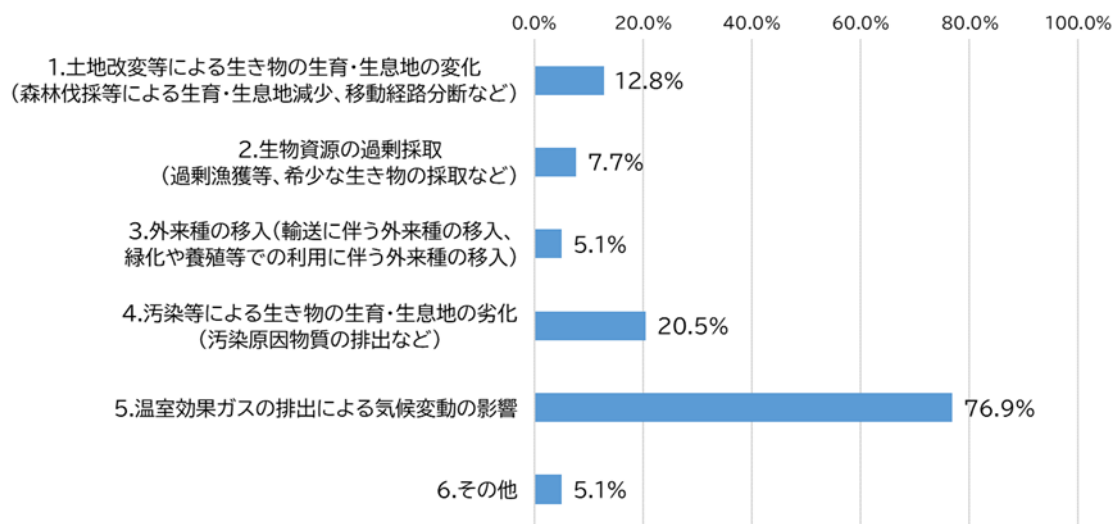
事業活動と生物多様性との関係<SA> (N=78)



- 貴事業所の事業活動が生物多様性に及ぼす影響として、どのようなものが可能性として考えられますか。

→「温室効果ガスの排出による気候変動の影響」と回答した事業者が多かった。

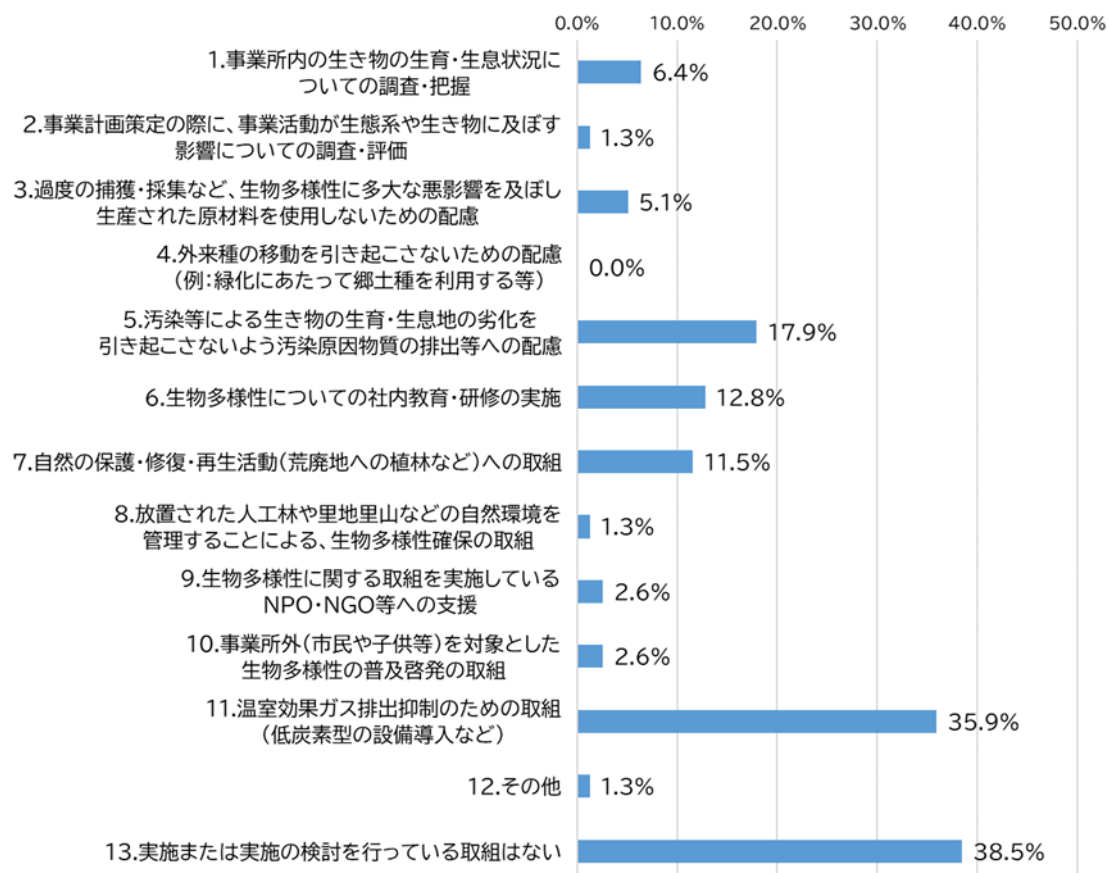
事業活動が生物多様性に及ぼす影響<MA> (N=78)



- ◆ 生物多様性の保全や利用に関する具体的な取組として、どのようなことを実施または、実施の検討をしていますか。

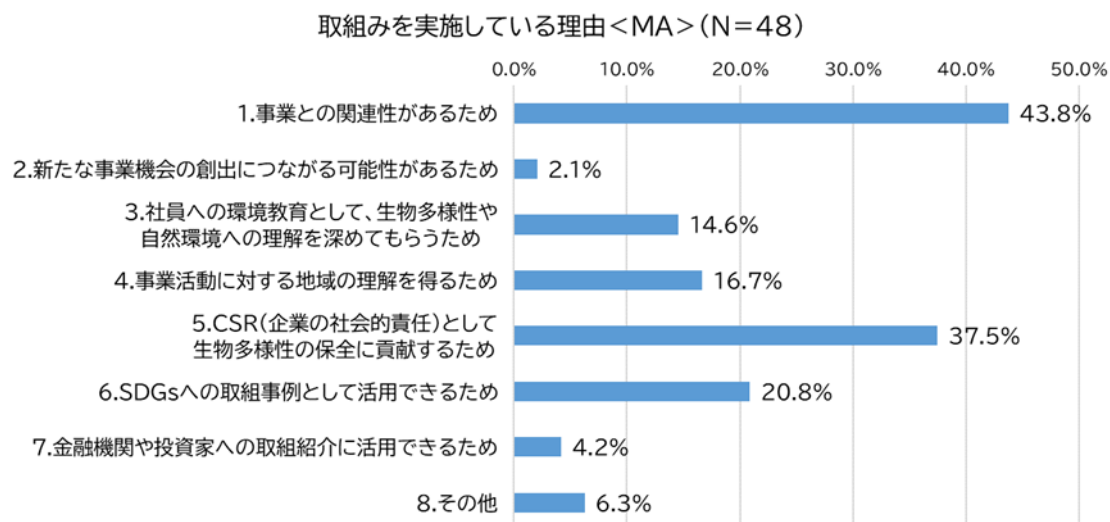
→「実施または実施の検討を行っている取組はない」と回答した事業者が最も多く、次いで「温室効果ガス排出抑制のための取組」と回答した事業者が多かった。

生物多様性の保全や利用に関する具体的な取組<SA>(N=78)



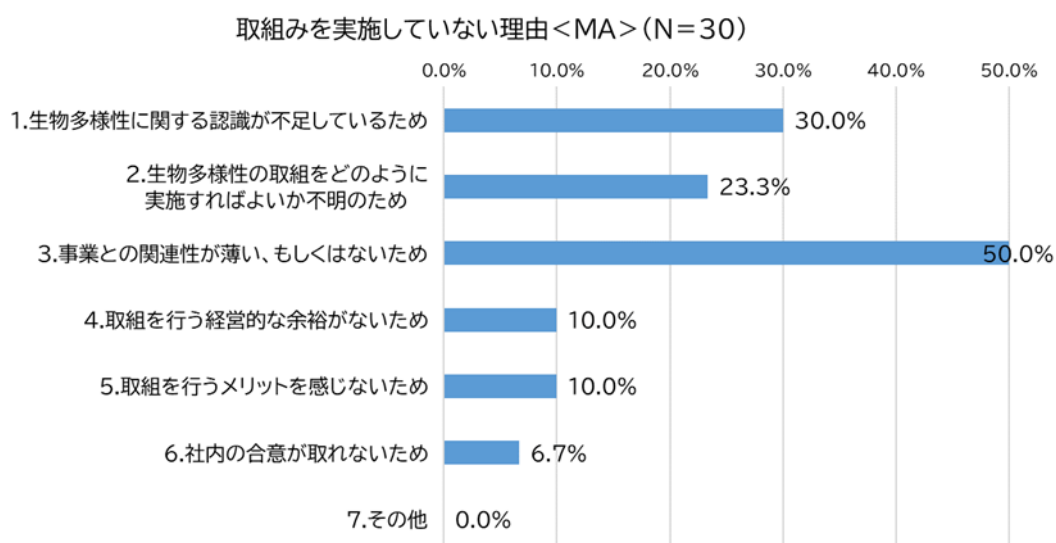
- ◆ 生物多様性の保全や利用に関する具体的な取組を実施または実施を検討している理由について、教えてください。

→取組の実施理由は「事業との関連性」や「CSR 活動」と回答した事業者が多かった。



- ◆ 生物多様性の保全や利用に関する具体的な取組について、実施していない、または実施の検討を行っていない理由について、教えてください。

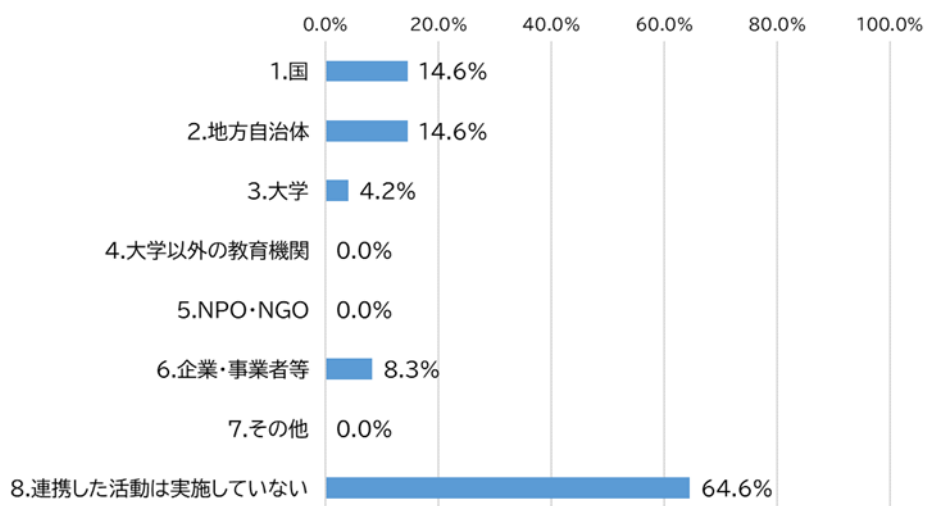
→取組を実施しない理由は「事業との関連性が薄いため」と回答した事業者が多かった。



- ◆ これまで、生物多様性の保全や利用に関する取組を進めてきた上で、他の主体と連携した活動はありますか。

→「これまで他の主体と連携した活動は実施していない」と回答した事業者が多かった。

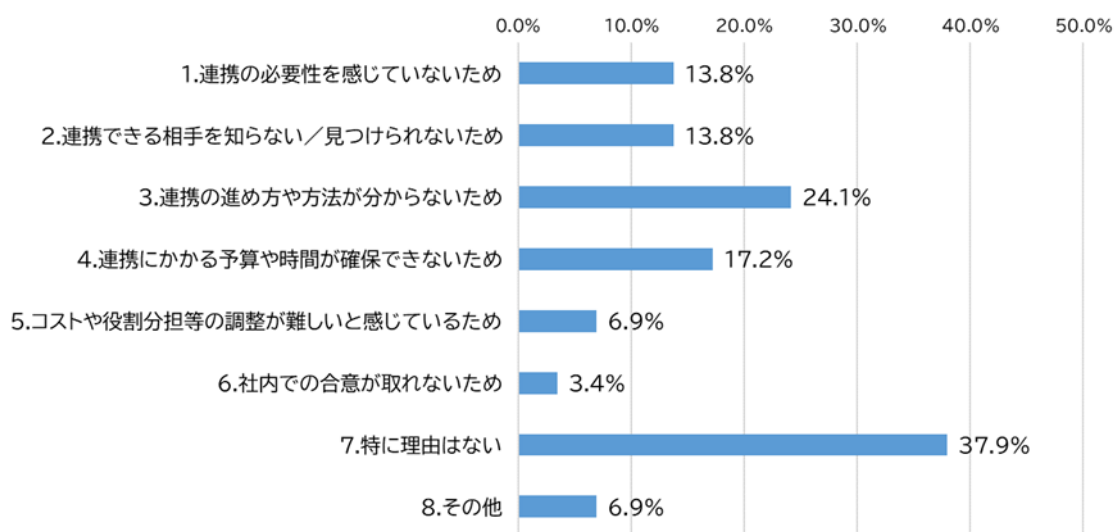
これまでの取組において、他の主体と連携した活動はあるか<MA>(N=48)



- ◆ 生物多様性の保全や利用に関する取組で他の主体と連携しないことについて、連携の支障となっている理由を教えてください。

→「特に理由はない」「連携の進め方が分からない」「連携にかかる予算や時間が確保できない」と回答した事業者がみられた。

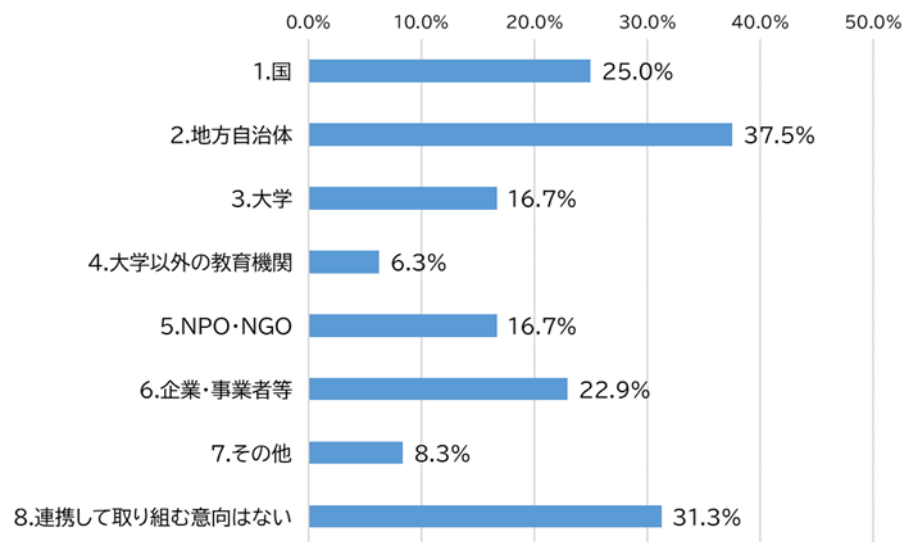
連携した活動がない場合、連携の支障となっている理由<MA>(N=29)



- ◆ 今後、生物多様性の保全や利用に関する取組を進める上で、他の主体と連携した活動に取り組んでいく意向はありますか。

→地方自治体と連携の意向がある事業者が多かった。

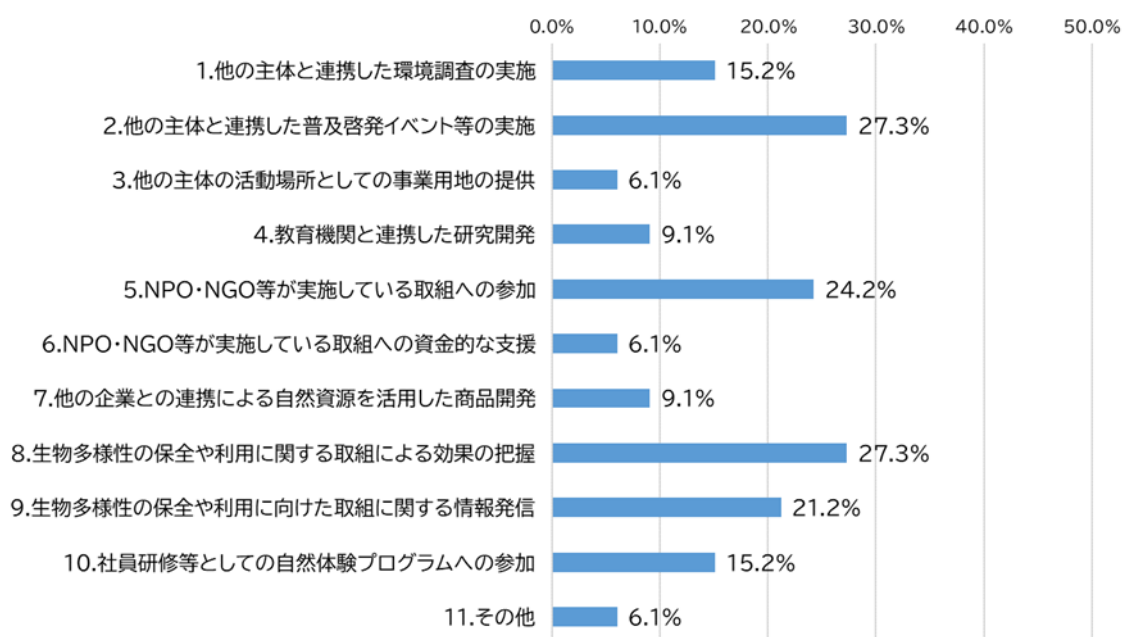
今後連携の意向がある場合、連携先としてあてはまるもの<MA> (N=48)



◆ 今後、生物多様性の保全や利用に関する取組を進める上で、他の主体と連携した活動に取り組んでいく意向がある場合、どのような連携活動を希望していますか。

→「普及啓発イベント」「生物多様性の保全や利用に関する取組の効果の把握」と回答した事業者が多かった。

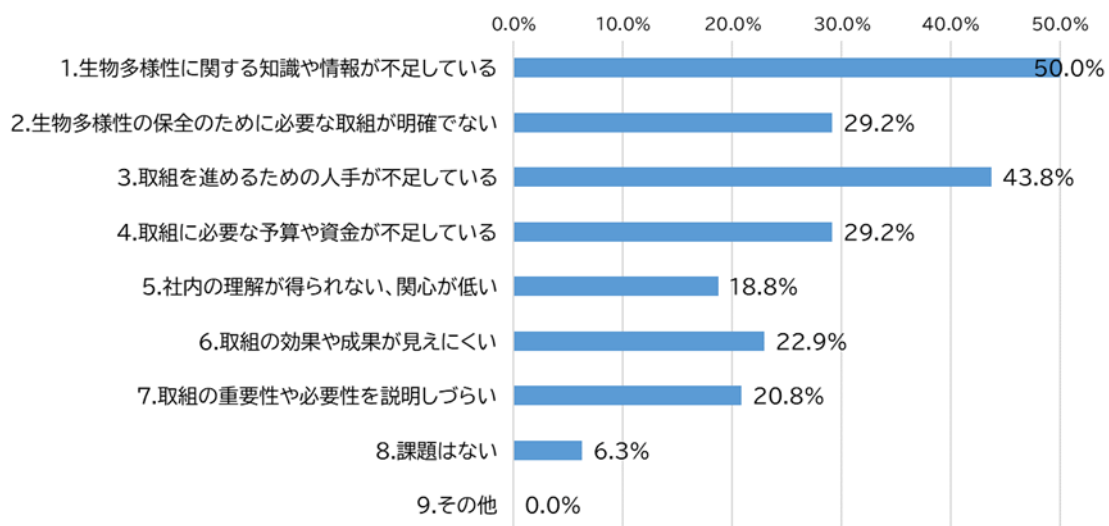
連携の意向がある場合、どのような連携活動を希望するか<MA>(N=33)



- ◆ 現在および今後、生物多様性の保全や利用に関する取組を進めていく上での課題について、教えてください。

→「知識や情報が不足している」「人手不足」と回答した事業者が多かった。

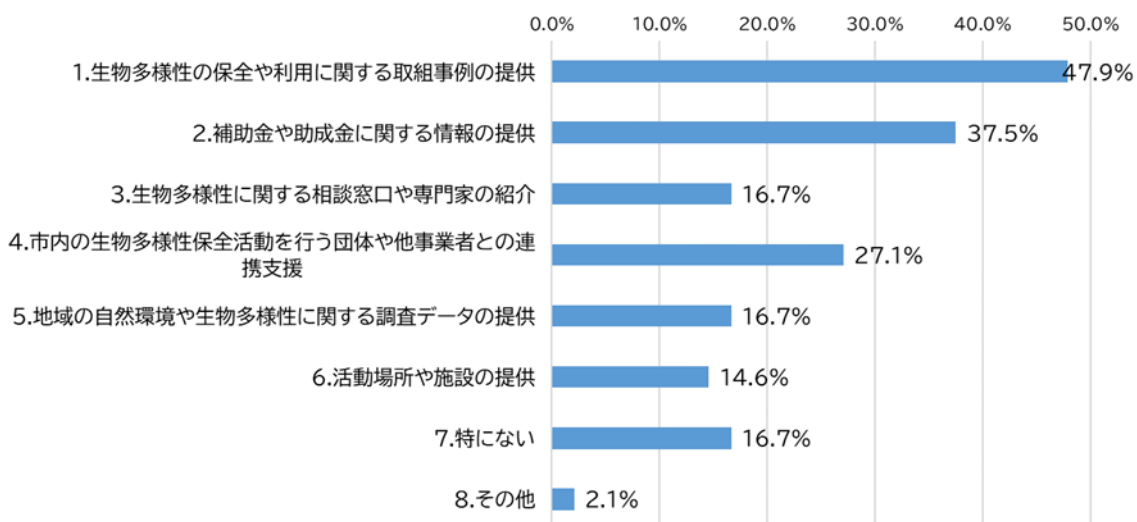
取組を進める上での課題<MA>(N=48)



- ◆ 今後、生物多様性の保全や利用に関する取組を進めていくために必要だと思われる市からの支援について、教えてください。

→「取組事例の提供」や「補助金等の情報提供」と回答した事業者が多かった。

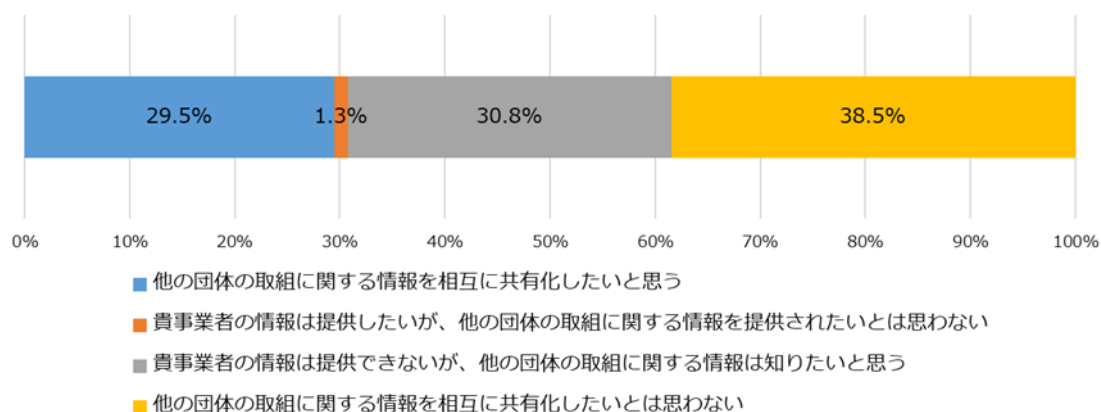
今後必要と考える市からの支援<MA>(N=48)



- ◆ 貴事業者や他の団体の取組に関する情報を相互に共有化したいと思いますか。

→約7割の事業者が「自社の情報を共有したいと思わない」と回答した。

情報共有化に関する意向<SA>(N=78)

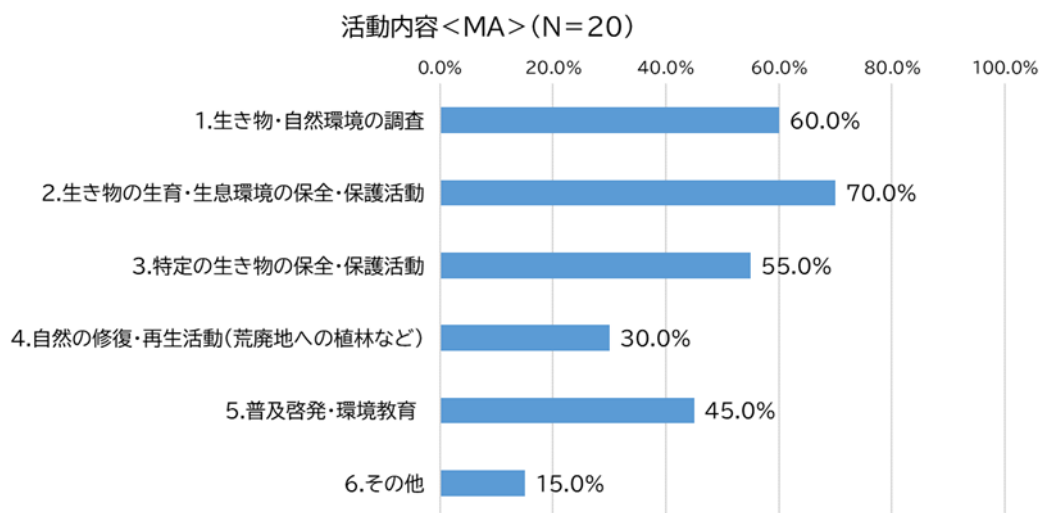


(4)市民団体アンケート

調査対象者	主要な活動場を船橋市内とする自然環境団体等
調査期間	9月
配布の方法	メール
回収の方法	オンラインシステムによる回答、FAX・郵送
アンケート 配布数	37団体
有効回答数	22団体(59.5%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全・利用に関する活動の実施状況 ・具体的な活動の内容（調査、保全、教育等）、活動場所・対象 ・活動継続における課題（人材、資金、技術不足等） ・他の主体（行政、大学、企業等）との連携状況 ・活動を促進するために市に期待する支援策 ・地域の歴史や文化に着目した活動の実施状況 ・他団体との取組情報の共有化に対する考え方
調査結果の 要点	<p>【自然環境保全に関する活動】 生物多様性の保全や利用に関する活動として、生き物の生育・生息環境の保全・保護活動や生き物・自然環境調査が多かった。 活動における課題について、人材確保や育成と回答した団体が多かった。</p> <p>【他の主体との連携活動】 他の主体と連携した活動について、8割以上の団体が連携した活動を行ったことがあると回答し、連携先のほとんどが地方自治体であった。</p>

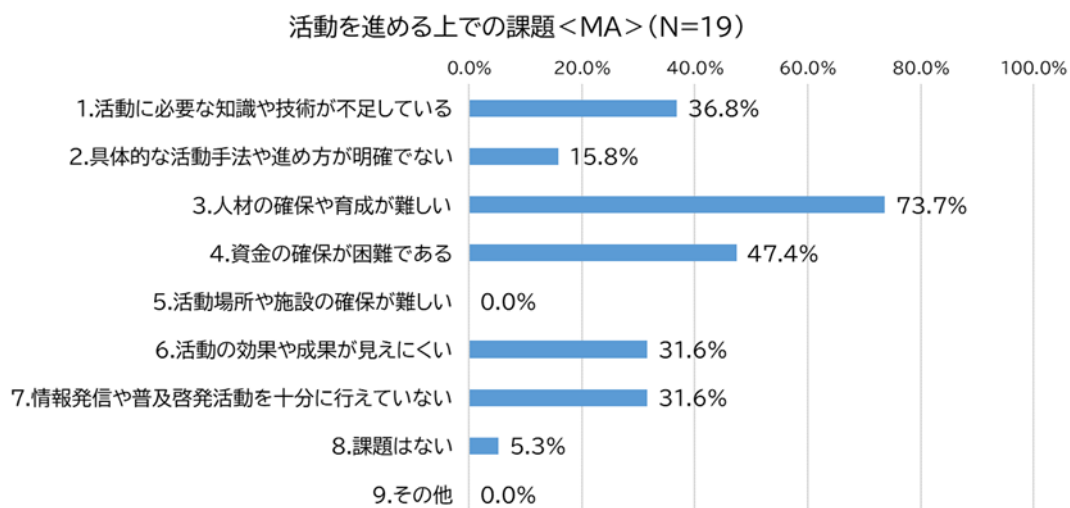
- ◆ 生物多様性の保全や利用に関する活動は、どのようなことを実施または実施の検討をしていますか。

→「生き物の生育・生息環境の保全・保護活動」と回答した団体が多かった。

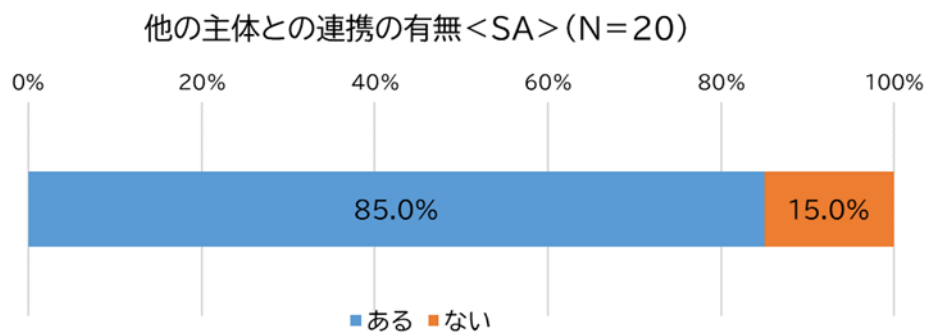


- ◆ 活動する上での課題について、教えてください。

→「人材確保、育成」と回答した団体が多かった。

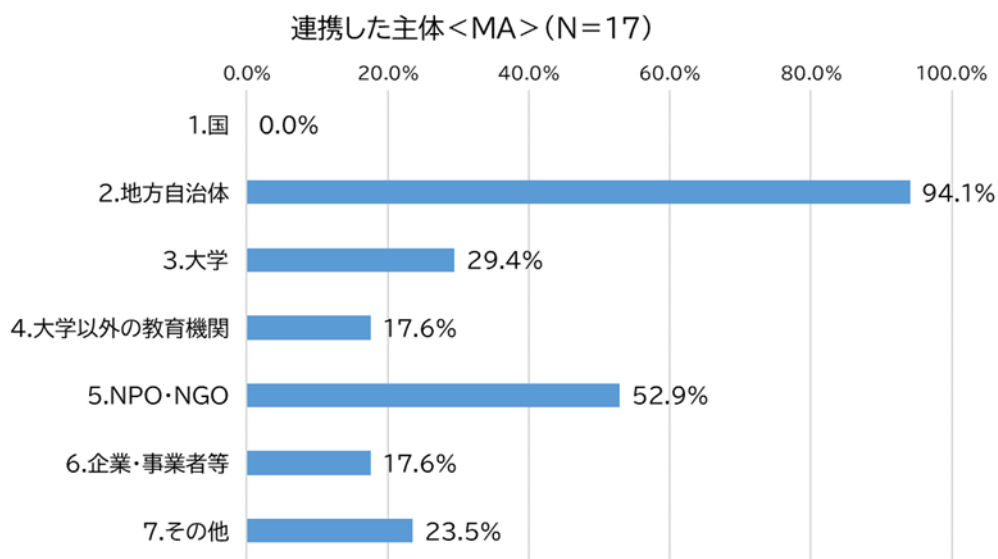


- ◆ これまで活動を進めてきた中で、他の主体と連携した活動を行ったことがありますか。
→ 8割以上の団体が「ある」と回答した。



- ◆ 連携した主体について、教えてください。

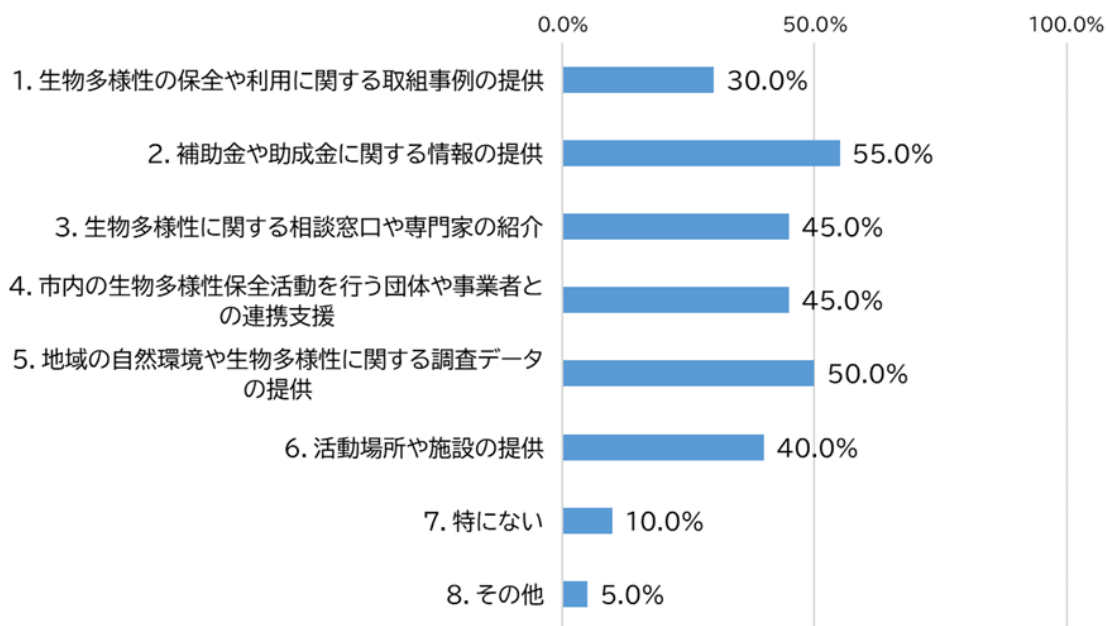
→ 9割以上の団体が「地方自治体」と回答した。



- ◆ 今後、活動を進めていくために必要と思われる市からの支援について、教えてください。

→「補助金等の情報提供」や「地域の自然環境等に関する調査データの提供」と回答した団体が多かった。

今後、活動に必要と思われる市からの支援<MA> (N=20)



- ◆ 貴団体や他の団体の活動に関する情報を相互に共有化したいと思いますか。

→ 6割強の団体が「情報を共有化したい」と回答した。

活動に関する情報を相互に共有化したいか<SA> (N=22)

